

手をつなごう2007

平成19年 6月18日

岡山県立東備養護学校

支援部だよりNO. 7

ご協力ありがとうございました



ニーズ調査

本校ではこれまで、特別支援教育の実施に向けて様々な取組を進めてきました。特に地域の特別支援教育におけるセンター的役割を果たすことができるよう、巡回相談・公開講座・コーディネーター講座の実施、地域の特別支援ネットワークの構築などに取り組んできたところです。

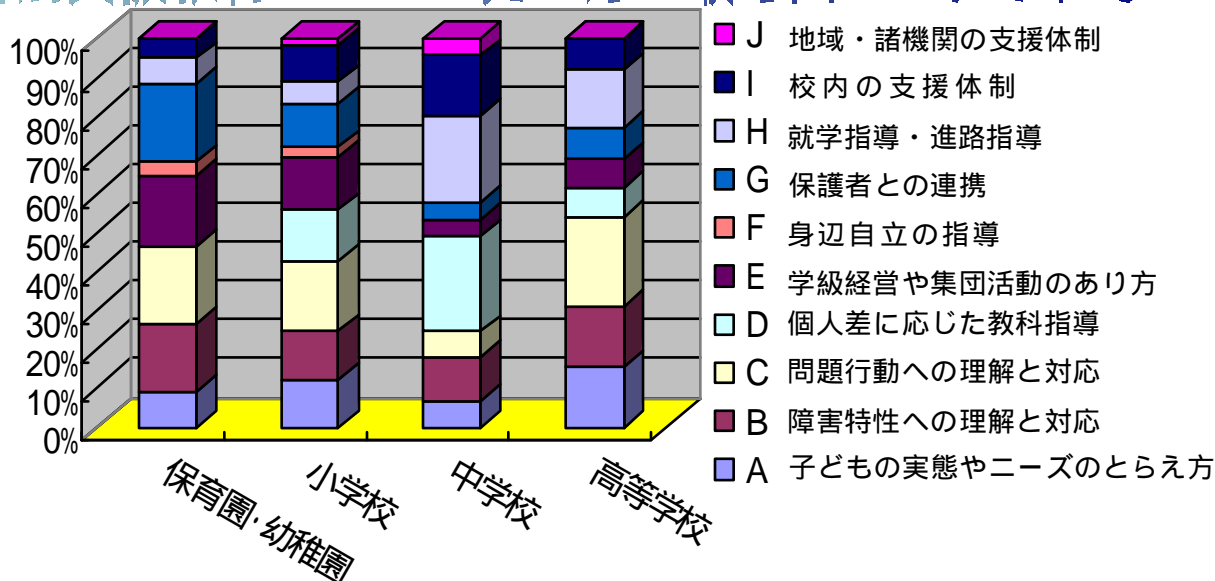
今年度、これらの取組をさらに進めるために、5月中旬から6月中旬にかけて、学区の保育園・幼稚園・小中学校・高等学校188校(園)へニーズ把握のためのアンケートをお願いしました。ご協力くださったのは76校(園)で、約40%の回答率でした。内訳は、保育園8/55(15%)、幼稚園14/46(30%)、小学校36/58(62%)、中学校13/21(62%)、高等学校5/8(63%)です。

お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。結果につきましてはこの支援部便りの中で少しずつご紹介していきたいと思います。

今回はまず、「特別支援教育について先生方が最も困っておられること」についてご紹介します。

A～Jまで項目をあげ、当てはまるものを選んでいただきました。複数回答可ですので、総計は回答校数より多くなっています。

特別支援教育について先生方が最も困っておられること



○保育園・幼稚園では、保護者も「障害かな?」という気づきの段階であり、保護者との連携に難しさを感じておられるようです。また子ども理解をどう進めていくか、集団での活動にどのように入れていくかにも難しさを感じておられるようです。まずは保護者との良好な関係をつくるための支援が必要と思われます。

○小学校ではクラス集団の中での子どもの行動問題への理解・対応、学級経営の在り方などの悩みが多いようです。個への配慮と集団づくりの視点が大切になる時期なのだと思います。

○中学校は進路の問題や個人差に応じた教科指導などについての悩みが多くなっています。学力保障と進路保障の問題がクローズアップされてくる時期と言えるでしょう。

○高等学校は、回答数が少なく、学校による差が大きいと思うので一概には言えませんが、問題行動や障害特性の理解と対応という、基礎的な段階のニーズが多いと思われます。

子どもの生活年齢によって先生方の抱える困難さも変化していくことが改めてわかりました。今後の巡回相談や研修計画立案の際に参考にしたいと思います。